

月報

No.38

・発行日
52・12・19
・発行
岡崎市AVL
・編集
広報委員会

自作ビデオ教材続々完成

「郷土読本シリーズ」など九本
視聴覚ライブラリーの自作委員会をはじめ、理科地学サークル、英語科AV研究部の先生方の手による自作ビデオ教材が次々に完成し、ライブラリーに保管されています。

これは、本年度新しくカラーカメラを三台購入し、利用しやすくなつたことと、先生方の制作意欲が高まつたことによるものです。カラーカメラは引っぱりだこで、予約なしでは借りられない状態です。

さて、ここで自作された録画教材をまとめて紹介しておきます。

◎郷土読本「おかさき」(小三社)にあわせた作品

- 「いちご作り」―矢作のいちご(温室栽培)
- 「糸をつくる工場」―紡毛工場(井田)
- 「上水道」―男川上水場の働き

○「中心商店街」―松坂屋・レオを中心にして
○「新しい校舎」―学校建築を中心に市役所の働きを探る

これらは学習の動機づけとして使うと効果があるように作られています。例えば、「中心商店街」を視聴した後、自分達の近くの商店はどうなっているか調べたり、郷土読本の図表で調べる手がかりとするような利用方法が考えられます。

◎英語作品 (Joyful English)

○「*The glad to see you*」 (三年)

○「*What color is this?*」 (一年)

◎理科作品

○「馬頭原の怪石のなぞ」 (小五理)

○「私達の町のなりたち」上巻 (中三理)

いずれも一五分以内におさめられています。ぜひご利用ください。

県自作視聴覚教材コンクール応募締切迫る!!

- 一 応募部門 18ミリ・スライド・ビデオ
- 一 提出期日 153年一月十二日(木)
- 一 提出先 岡崎市視聴覚ライブラリー
- 一 応募要項 教育公報一四〇号参照

第二十八回 (宮崎)

学校視聴覚全国大会に参加して

(十一月十七・十八日)

「ひとりひとりが喜びを見つけ、生き生きと進んで活動する子どもを育てる。」こんな大会スローガンのもとに視聴覚機器がどのような役割を果しているかと実践の報告がなされた。

宮崎大学附属小学校の授業は他の学校の生徒が参加するという変則なものでしたが、フロイチャート、チェックカードなど個人の学習を大切にしているところの考えがよく表われていた。

しかし、OHPの扱い方、テレビの位置等、細かい配慮が不足していた。

午後の分科会では、機器の充実不足や、自作の資料の製作の苦心などが発表され、どこでも苦労は同じだと感じた。

全体を通じて、テレビも、TPやスライドと同じ資料として扱い、番組の再編成をして探究に生かす立場をとっていた。

現在、岡崎がとっている丸ごと、継続視聴とは方向が大いに異なるものであると感じた。

(愛宕小 白井)

学校だより

香山中学校

A 先生 「レコード準備はいいですか。テープはいいですか。」

Nr 「私たちの学校 香山中学校……」
A 先生 (ストツプの合図 巻きもどして録音の状態を再生してみる)

B 先生 「BGMのこのピアノの音が時々聞きづらいところがある。それとNrの語尾が全体的にはつきりしない。」

私達しろうとが集まって、始めて学校紹介のビデオをつくってみました。すこしやつてはやりなおし、またやりなおすという状態でした。

一応つくってみたものの、欠点ばかりが目立つ不完全なビデオが一本できました。しかし、この製作を通して、私達はカメラ製作、編集構成、ナレーションなどいろいろな勉強をしました。

また六月にビデオ(AV8700)の寄贈を受け、放送室に一台、二階の教室用に一台常備でき、持ち運びや結線の手間が省け大変使いやすくなりました。そのためか二学期から教科に昼の放送にとより活用されるようになりました。(M)